

1. 第 8 回整備基本計画専門部会(平成 24 年 6 月 11 日開催)議事要旨

1. これまでの検討経過と決まったことについて

①「検討の方向性」という項目名を「主な検討の内容」等に変更し、生ごみの分別収集に関する記述等内容を再度整理する。そして決定事項を町田市 of 広報誌に掲載する。

2. バイオガス化施設の発酵残さの利用方法について

①堆肥化しても発生量(約 35t/日)に比べ需要量(2.9 t/日)が全く見込めないことから、発酵残さの利用は熱回収施設の補助燃料と決定する。

②発酵残さの補助燃料化が理想の活用方法ではなく、堆肥化される 3000t 以外の 19000t の発酵残さについて、有効な活用方法を検討していくことが望ましい。

3. バイオガスの各利用形態及びメーカーアンケート結果について

【バイオガスの各利用形態について】

①熱回収施設でバイオマスを焼却する場合の電力の売電価格は、焼却される廃棄物に含まれるバイオマスの量に売電単価を乗じて算出される(図-1 参照)。

$$\text{熱回収施設での売電単価} = \text{売電単価} \times \frac{\text{バイオマス}}{\text{全廃棄物}} (\%)$$

図-1 計算例

②熱回収施設単独設置で発電、売電を行う CASE0 と、熱回収施設とバイオガス化施設を併設し、バイオガスを熱回収施設の過熱器熱源や自動車燃料として使う CASE3 とで発電量が倍以上も異なるのはおかしいのではないか。

→メーカーアンケート結果に基づいて算出しているため、アンケート結果のデータを精査する。

【メーカーアンケート結果について】

①A 社、B 社、C 社では発電効率が異なる(それぞれ 17.7%、18.1%、20.18%)。これは、A 社、B 社と C 社の排ガスの自主規制値が異なるため、施設内の設備が異なることが原因と考えられる。A 社、B 社は自主規制値 A より厳しい自主規制値 B を採用し、C 社は自主規制値 A を採用している。

②今回は、各社の排ガスの自主規制値が異なる条件下で比較での比較となった。メーカーがアンケートに回答していただくのが状況的に厳しいため、限られたデータの中で数値に幅を持たせて議論を進める。

4. 環境省の報告書について

①再生可能なものを燃やして排出される二酸化炭素の量とバイオガス化し燃やした場合に排出される二酸化炭素の量は変わらない。バイオマスから排出される二酸化炭素の量はカウントしないことが制度で決められている。

5. 不燃ごみ、粗大ごみの処理施設について

① 不燃ごみ、粗大ごみ処理施設については、最近の実績を踏まえ、施設規模や施設の建設コストについて事務局が調べて次回の部会で提案する。また、本部会では、建設コストや施設に導入する機械等について議論するのではなく、建設する施設の方針、考え方について議論を行っていく。

6. その他

①整備基本計画専門部会として、カンポリサイクルプラザの施設見学を事務局に要望する。

②意見交換会前に、資源化施設の環境条件、環境対策について議論する。

以上

2. 第7回建設候補地選定専門部会(平成24年6月14日開催)議事要旨

1. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の内容と評価の例

- ①開発規制に関して、地区計画のような用途規制以外の規制について再度確認する。
- ②資源ごみ処理施設の評価項目について「6)施設の分散化」という大項目を新たに作り、その中に「熱回収施設等との距離」、「資源ごみ処理施設同士の距離」という小項目を新たに設ける。本項目は評価のプロセス上後に回し、他の項目によって候補地をいくつか絞り、残った候補地の組み合わせによって評価する。
- ③候補地内または候補地周辺でのNPOの環境保全活動、農業の有無等を評価項目に反映させる。しかし、NPOや農家等はいつまで活動を続けるのか分からないことが課題となる。

2. 建設候補地選定 三次選定の評価項目の配点の検討

- I、ワークショップ形式(協働作業の中で方向性を見出すやり方)で評価項目の重み付けを行った。
- II、大項目と小項目それぞれについて重み付けの作業を行った。以下には大項目の配点結果を記載する。

[熱回収施設等の大項目に対する配点結果]

評価項目	松波	佐藤(臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能/維持管理	20	20	25	20	30	25	25
2)環境	20	30	25	30	20	20	25
3)土地利用	20	30	10	20	20	15	20
4)経済性	20	10	25	20	20	25	20
5)余熱等利用	20	10	15	10	10	15	10
合計	100	100	100	100	100	100	100

※敬称略。

[資源ごみ処理施設の大項目に対する配点結果]

評価項目	松波	佐藤(臣)	百武	稲木	大谷	高木	富岡
1)機能/維持管理	20	20	25	20	20	20	-
2)環境	20	25	25	20	20	25	-
3)土地利用	20	15	5	20	15	15	-
4)経済性	20	15	25	10	15	20	-
5)分散化	20	20	20	30	30	10	-
合計	100	100	100	100	100	100	-

※敬称略。富岡委員は途中で退席された。

- ①本日の部会では、評価項目の数は決定しない。
- ②欠席委員の重み付けの意向も確認し、次回の部会で項目の配点結果を提示する。

以上

3. 施設整備基本計画検討スケジュール

委員会・部会等	項目	2012年										2013年		
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
町田市資源循環型施設整備基本計画検討委員会	検討委員会(両専門部会合同)	20日:第9回検討委員会 ・建設候補地選定専門部会からの報告 (1)二次選定の項目及び結果について (2)三次選定評価項目(案)		6日:第10回検討委員会 ・意見交換会に向けた確認 ・熱回収施設(焼却施設)、不燃粗大処理施設、ごみメタン化施設、資源ごみ処理施設の内容の確認 ・建設候補地選定三次選定評価項目の配点案の確認			下旬:第11回検討委員会 ・ごみ発生量の時点修正を踏まえたデータの更新 ・意見交換会の意見の整理			上旬:第12回検討委員会 ・三次選定評価項目の最終確認	中旬:第13回検討委員会 ・建設候補地最終選定結果の確認 ・各施設の決定内容の確認 ・意見交換方法の確認	第14回検討委員会 ・施設の運営計画の検討 ・報告書(案)の検討		第15回検討委員会 ・報告書の確認
	整備基本計画専門部会	20日:第7回専門部会 ・資源ごみ処理施設の分散化について ・熱回収施設の炉数について ・排ガス自主規制値について ・地域計画と委員会との関連スケジュール	11日:第8回専門部会 ・メーカーアンケート結果について ・メタンガスの各利用形態について ・発酵残さの利用方法について ・環境省の報告書について ・不燃・粗大ごみ処理施設について	2日:第9回専門部会 ・メタンガスの各利用形態について ・不燃・粗大ごみ処理施設について ・資源ごみ処理施設について			上旬:第10回専門部会 ・計画ごみ量の見直し			上旬:第11回専門部会 ・環境保全計画の作成 ・付帯機能の検討 ・新たに資源化できる物の抽出と推進策の検討				
	建設候補地選定専門部会	25日:第6回専門部会 ・二次選定結果 ・三次選定の評価項目の内容と評価の例 ・三次選定の評価項目の配点の検討	14日:第7回専門部会 ・三次選定の評価項目の内容と評価の例 ・三次選定の評価項目の配点の検討 28日:第8回専門部会 ・14日部会の議論及びワークショップの結果を受けた三次選定評価項目の配点案					中旬:第9回専門部会 ・市民意見を受けた三次選定評価項目の見直し		下旬:第10回専門部会 ・三次選定評価結果 ・候補地最終選定(案)作成		第11回専門部会 ・周辺施設の整備の方向性について、詳細を詰める事項を確認、整理		
意見交換会・意見募集等	意見交換会(検討委員会確認後)	地元との意見交換	委員会二次選定の結果を受けて絞られた候補地周辺市民との意見交換				委員会で場所が決定した候補地周辺市民との意見交換				施設整備検討結果の説明(熱回収施設・資源化施設)周辺			
	広報	回覧板(町内会自治会等)	←→				←→				←→			
		広報まちだ	●7/21								●			
		環境広報ECOまちだ	●7/11								●			
		町田市ホームページ	●7/11								●			
	意見募集	まちテレ	7/16 ←→ 7/31								←→			
募集期間		←→								←→				
とりまとめ	←→				←→				←→					
町田市	事業計画	財源及び地域計画	←→				財源計画作成				←→			
	地域計画	←→				←→				地域計画作成				
ごみ発生量の時点修正	基礎数値の決定	←→				←→				←→				
施設検討	熱回収施設	←→												
	ごみメタン化施設	←→				←→								
	不燃・粗大処理施設	←→												
	資源ごみ処理施設	←→												
施設の運営計画	←→								←→					
とりまとめ	←→								←→					